

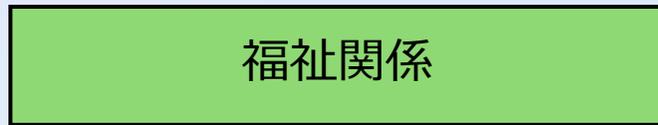
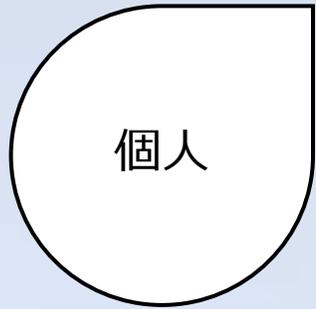
A photograph of a beach with a group of palm trees in the foreground. The sky is clear and blue. The text is overlaid on the left side of the image.

2025年度  
ユニバーサルビーチ主催者における実態調査  
結果報告書

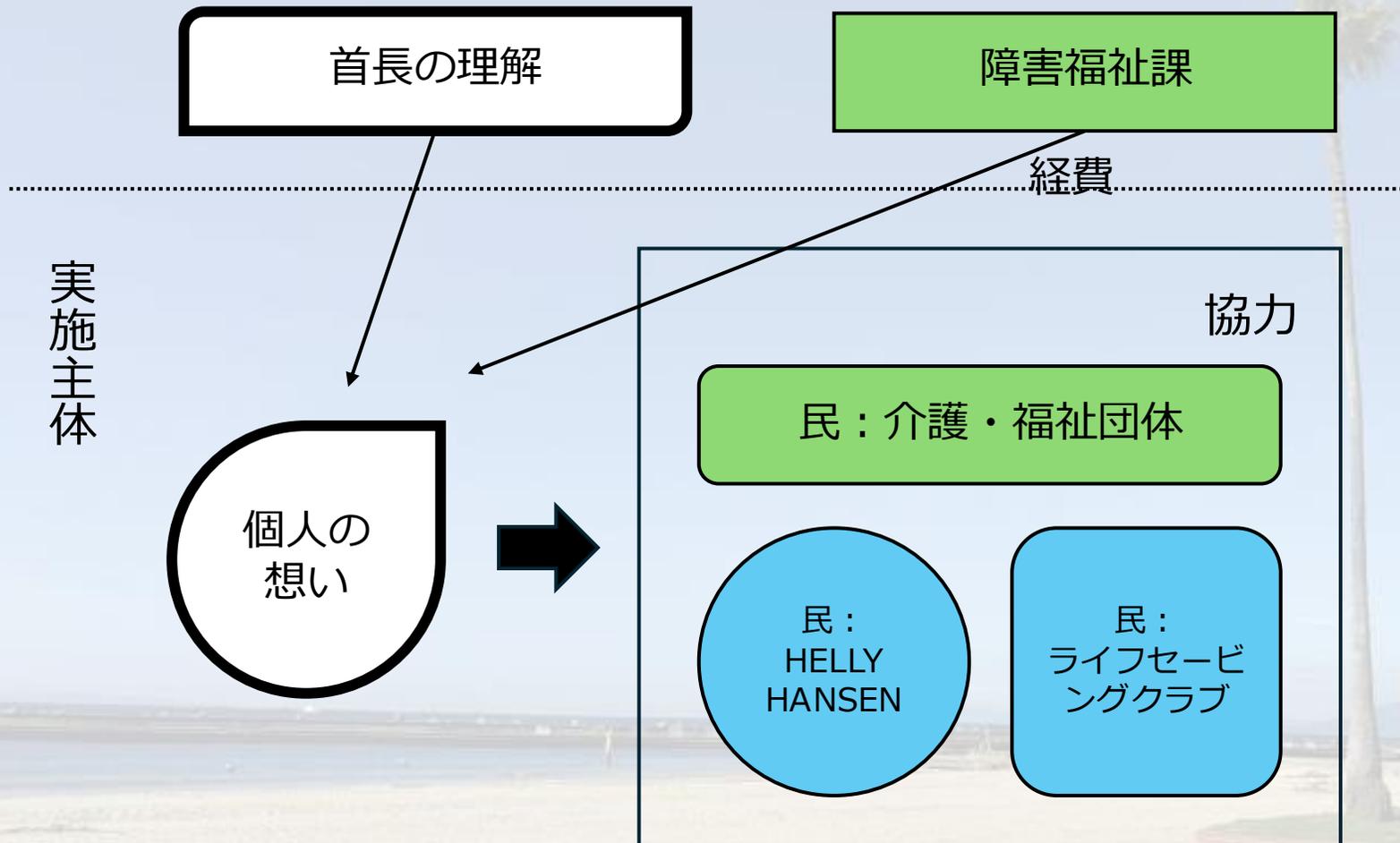
# 調査の概要

- ・調査日時 : 2025年11月・12月
- ・調査方法 : オンラインによるインタビュー調査
- ・調査時間 : 30分~1時間
- ・調査対象者 : ユニバーサルビーチ主催者(行政、民間団体、個人)
- ・調査内容 : 個人的属性、実施のきっかけ、イベントの詳細、実施(誘致)における課題、今後の可能性等

# 図形 / カラーの定義

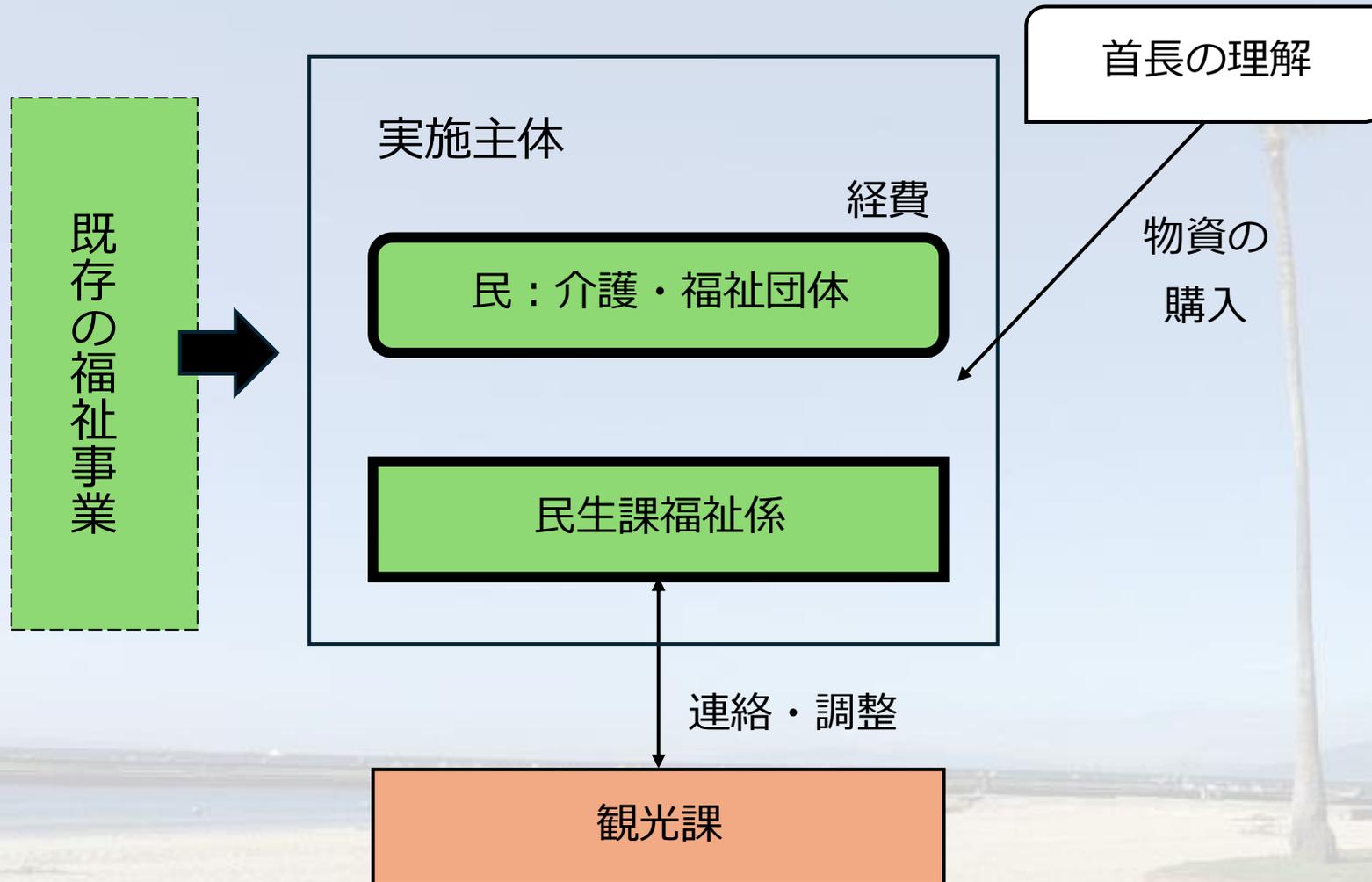


# 石垣市 民主導型：福祉メイン



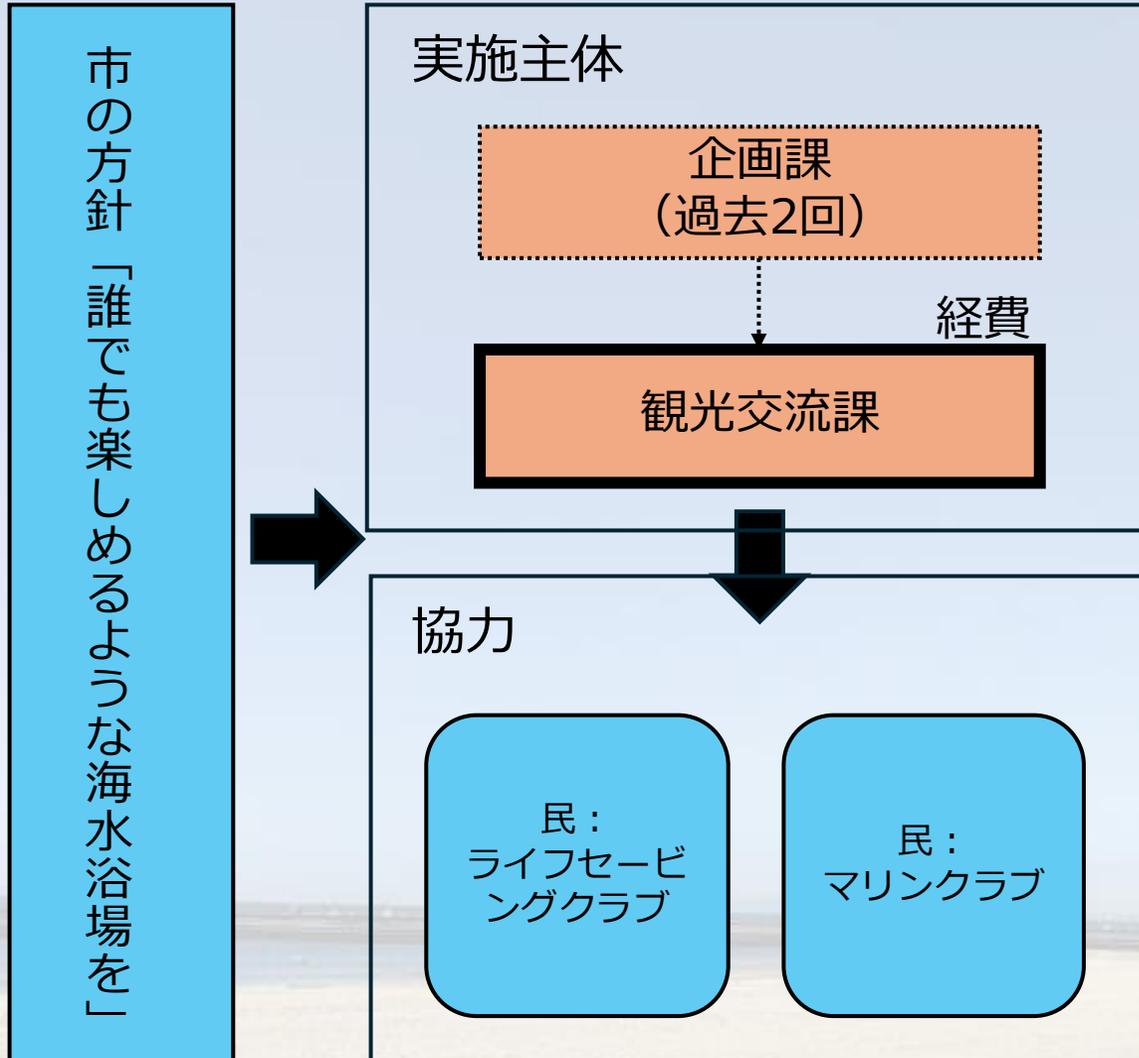
- ・市（企画政策課）の助成金から事業がスタート。
- ・現在は、障害福祉課が予算組み。
- ・首長の個人的思い強め。
- ・個人のマンパワーに依存している部分が多く、事業の持続性に不安。
- ・観光未接続。
- ・情報発信が課題。

# 白浜町 民主導型：福祉メイン



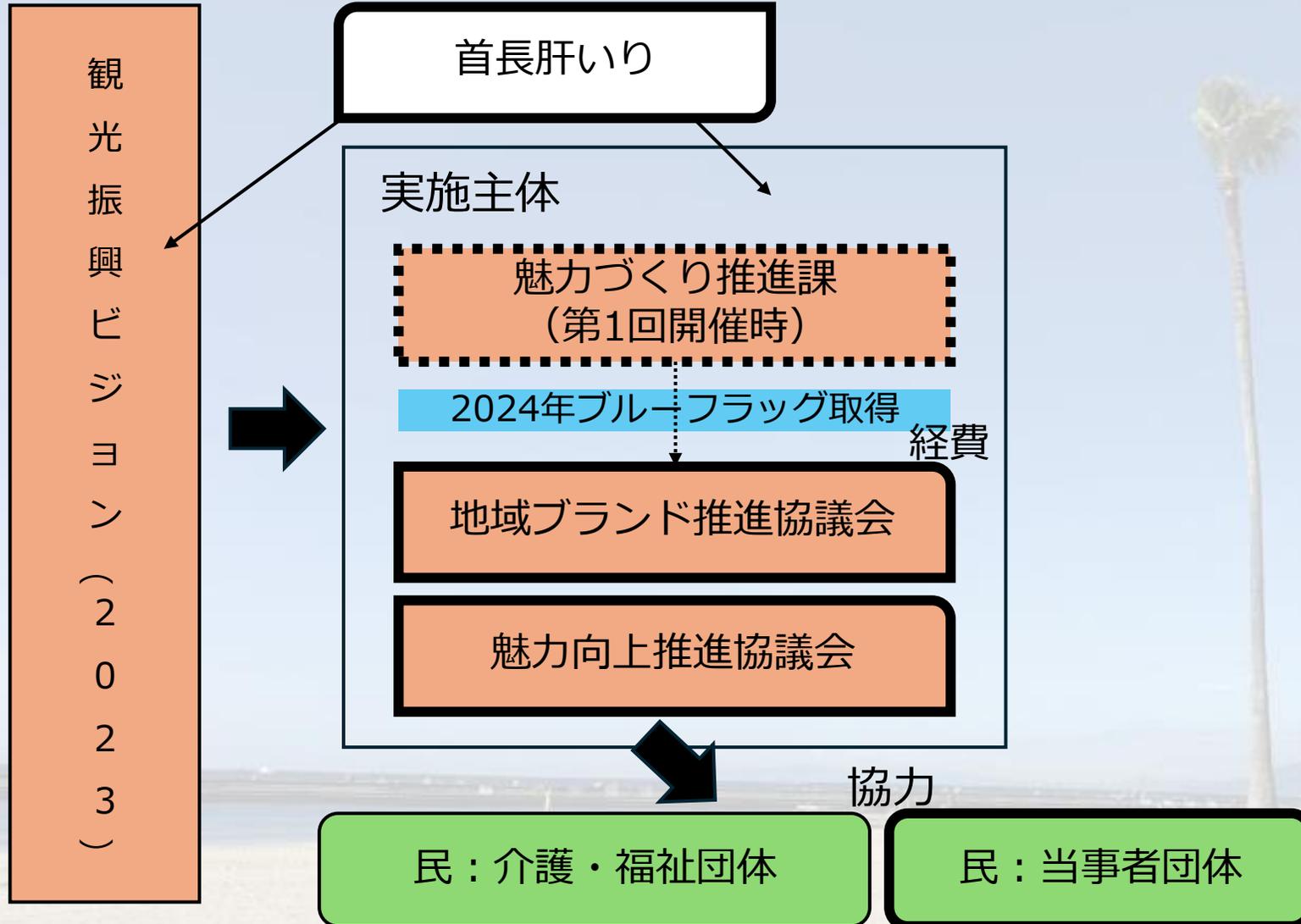
- ・既存の福祉事業の延長線上として企画。
- ・首長の理解もあり、物資の購入は首長単独で予算がおける。
- ・そのほかの経費については、実施主体の法人、また寄付金に依存傾向。
- ・観光課の関心度も低く、持続性に不安。

# 下田市 官主導型：観光メイン



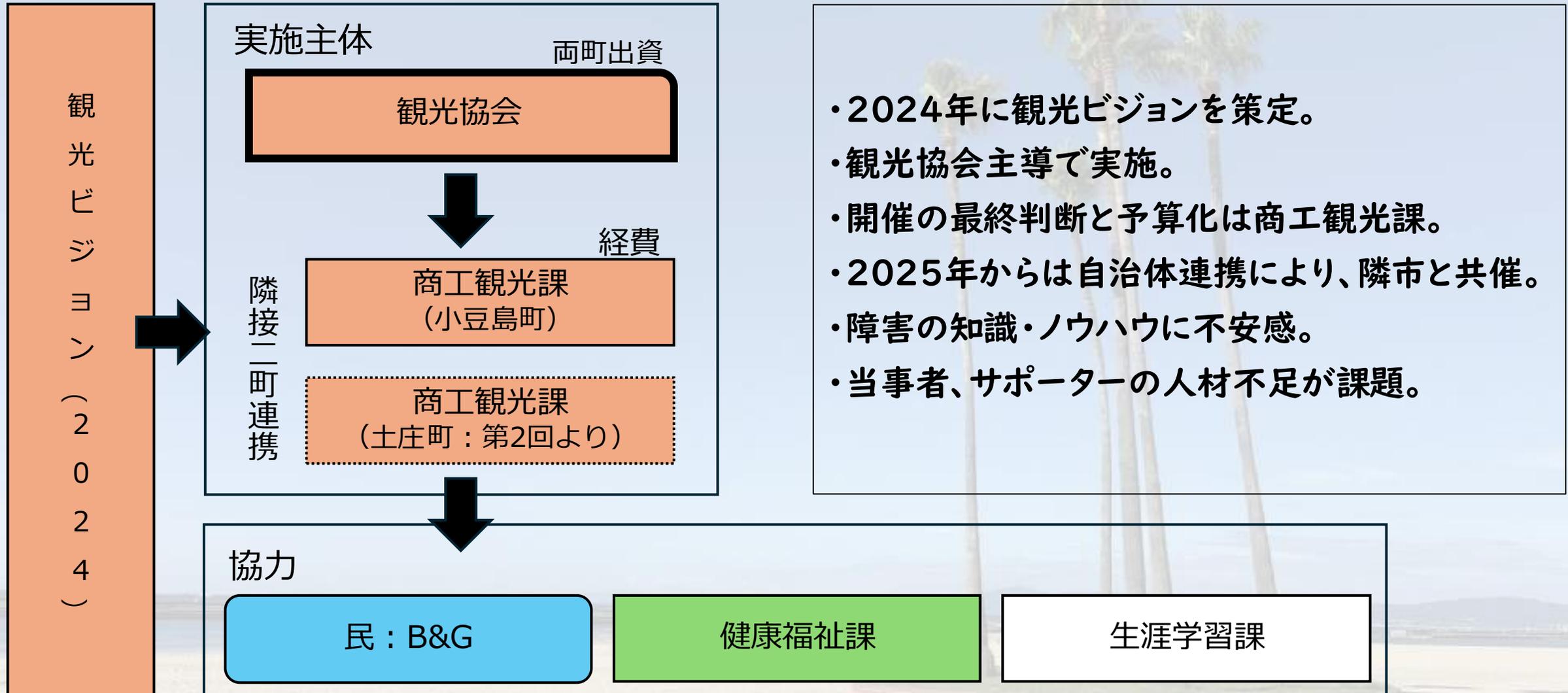
- ・国内有数の海水浴場が多数。
- ・市の方針として「誰でも楽しめるような海水浴場を」を掲げる。
- ・企画課で検討を開始し、過去2回の担当を担うも、海水浴場を管轄する「観光交流課」に担当をシフト。
- ・予算面は安定。
- ・福祉未接続。
- ・障害の知識・ノウハウには若干不安。
- ・当事者との密接性に課題。

# 貝塚市 官主導型：観光メイン

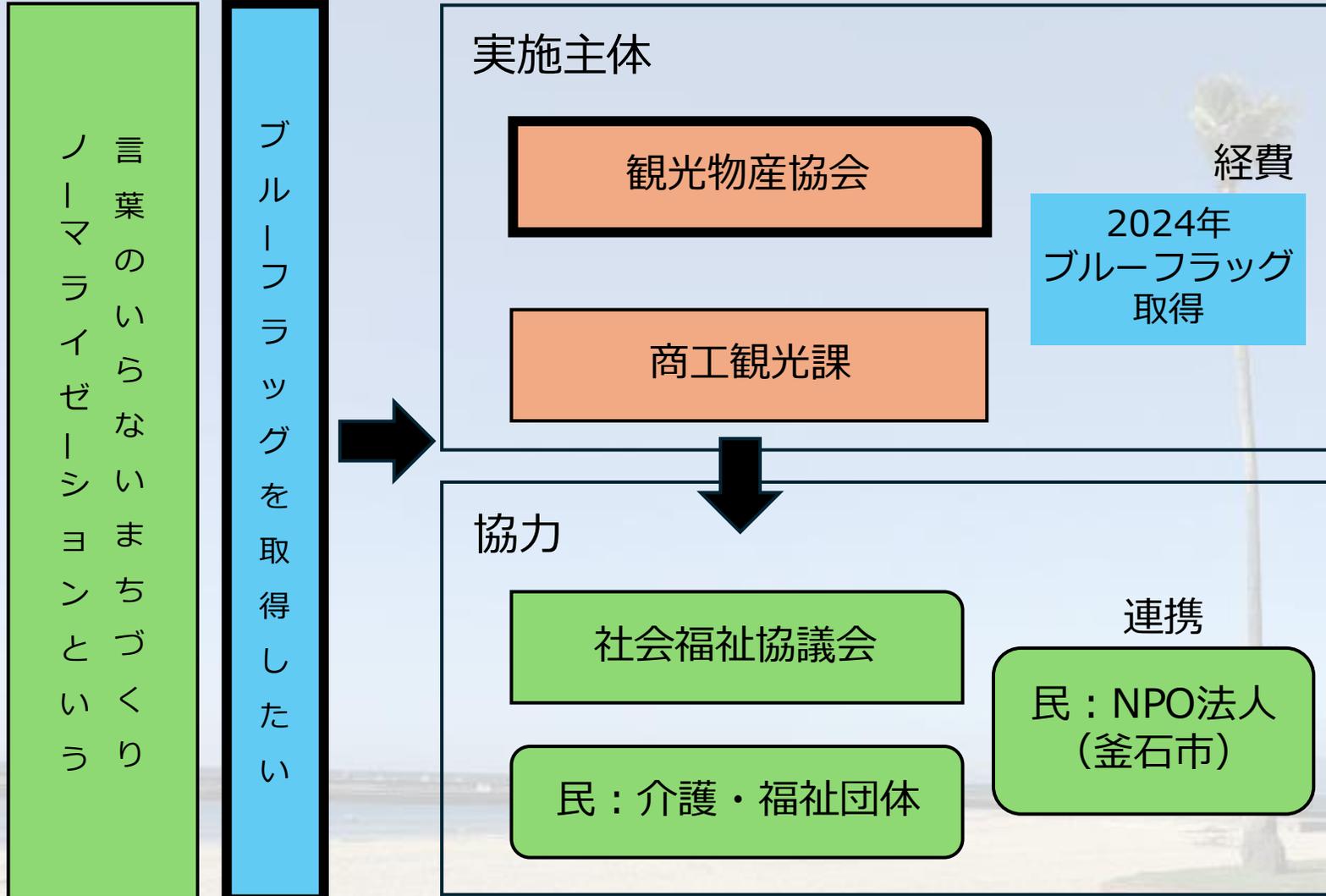


- ・2023年に観光振興ビジョンを策定。
- ・首長が観光×福祉に高い関心。
- ・魅力づくり推進課で検討を開始し、第1回目の担当を担うも、公民連携組織である「地域ブランド推進協議会」、「魅力向上推進協議会」に担当をシフト。
- ・2024年には大阪府初となる「ブルーフラッグ」を取得。
- ・海水浴場の運営が赤字であり、海水浴場そのものに対する不安。

# 小豆島地区 (小豆島町、土庄町) バランス型：観光メイン



# 陸前高田市 バランス型：観光メイン



- ・震災復興以降、「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」が目指されてきた。
- ・「ブルーフラッグ」を取得したいという強い思いの中で、ユニバーサルビーチに関心。
- ・2024年には岩手県初となる「ブルーフラッグ」を取得。
- ・観光物産協会主導のもと、商工観光課、また釜石市のNPO法人と連携しながら事業を実施。
- ・経費はブルーツーリズムの補助金。

# 結果のまとめ

	メリット	デメリット
民主導型	<ul style="list-style-type: none"><li>☑介護・福祉関係の専門家やスタッフが集まりやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>☑一般（市外）への情報発信弱め。</li><li>☑強い思いを持った個人がいないと不成立。</li><li>☑首長が変われば実施不能の可能性大。</li><li>☑財政面、持続可能性に不安。</li></ul>
官主導型	<ul style="list-style-type: none"><li>☑市のビジョンに沿って実施のケースが多く、予算取りが比較的容易。</li><li>☑情報発信に強み。</li><li>☑ブルーフラッグの取得モチベーションと連動。</li><li>☑他の自治体との連携可能。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>☑障害の知識・ノウハウが弱め。</li><li>☑海水浴場運営そのものに対する課題も。</li></ul>
バランス型	<ul style="list-style-type: none"><li>☑市のビジョンに沿って実施のケースが多く、予算取りが比較的容易。</li><li>☑情報発信に強み。</li><li>☑ブルーフラッグの取得モチベーションと連動。</li><li>☑他の自治体との連携可能。</li><li>☑地域レベルでの人的ネットワークが充実。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>☑障害の知識・ノウハウが弱め。</li><li>☑海水浴場運営そのものに対する課題も。</li></ul>

# 考察



民主導は参加者に主体性が生まれやすく、イベントの消費者ではなく賛同者・実施者（あるいはその予備軍）といった意識やモチベーションが育ちやすい。参加者間の連携性も高い。



官主導は予算的な後ろ盾が安定しているので、予算化されている間は体制整備等を進めやすいが、参加者がイベント消費者になってしまう場合は次第にリーダーを民へ移行する際の担い手が育ちにくい。



官民バランスよく連携している場合は、予算や広報を官、チームビルドを民といった分業により運営がスムーズであり、継続への不安感も少ない。

# 提言



福祉関係の部局が所掌すると障害者向けサービスの域を超えにくくインクルーシブな取組へと展開が難しいかもしれない。「ツーリズム」の観点から、観光部局との連携から始め、必要な部局に広げていくという計画は必要。



観光部局主導の方が安定しているが、障害等に対する個別具体的な対応を充足する意味でも福祉部局や当事者団体の巻き込みも必要。



官が当面予算と座組（プラットフォーム）を先導し、当初から民のキーパーソンと連携して体制整備を行って、中期的には民のリーダーを増やしつつ役割分担を行っていくという計画が望ましい。

調査にご協力いただきましたすべての皆様に  
御礼申し上げます

**【調査者】**

青山将己 流通科学大学人間社会学部 准教授

池谷 航 岡山大学学術研究院共通教育・グローバル領域 准教授

**【お問い合わせ先】**

〒651-2188 兵庫県神戸市西区学園西町3-1 流通科学大学人間社会学部 青山将己

Mail: Masaki\_Aoyama@red.umds.ac.jp

Tel: 078-796-4975